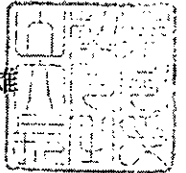


大地整02～79
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

山梨県 大月市長 石井 由己雄



今後の道路行政についての意見書

貴職におかれましては、日ごろから地方道路行政全般に対するご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、国内の景気回復の遅れにより、地方は閉塞感や先行きの不安感が先行し、加えて原油価格の高騰等により極めて厳しい経済状況下におかれております。

このような中で本市においては、交通安全の確保や安心して生活できる環境づくりを推進するため、様々な施策に取り組んでいるところであります。とりわけ地域住民と密接に関わる交通基盤の整備については、重要施策の一つに掲げ、鋭意その実現に努力しているところであります。

しかしながら、本市の地形的な特性から幹線道路においても狭隘な危険箇所等が存在し、バイパス建設や道路改良を促進することが急務となっております。

これらの事業促進については以前から要望しているところでありますが、地域の活性化や安全で安心できる環境を確保するため、「今後の道路行政について」別紙のとおり意見の提案を行いますので、ご高配賜りますようお願い申し上げます。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案 1/2

山梨県大月市

国内の景気回復の遅れにより、地方は閉塞感や先行きの不安感が先行し、加えて原油価格の高騰等により極めて厳しい経済状況下におかれている。このような中で本市においては、交通安全の確保や安心して生活できる環境づくりを推進するため、様々な施策に取り組んでいるが、とりわけ地域住民と密接に関わる交通基盤の整備については、重要施策の一つに掲げ、鋭意その実現に努力しているところである。

しかしながら、本市の地形的な特性から幹線道路においても狭隘な危険箇所等が存在し、バイパス建設や道路改良を促進することが急務となっている。これらの事業促進については、以前から要望しているところであるが、地域の活性化や安心して生活できる環境を確保するため、以下の要望事項が早期に実現されることを願うものである。

要 望 事 項

1 大月バイパス第二工区の早期完成

大月バイパスの建設は、大月市3万市民の悲願であったが、計画から30年を経て昨年第一工区が供用開始された。残された第2工区の国道139号から大月インターまでの間1.5kmについては、19年度に用地測量が完了し、本年10月下旬から用地買収に入る予定で進められているところである。

第一工区の供用開始により大月中心市街地の交通渋滞の緩和等が図られつつあるが、バイパスの機能は全線の完成により始めて果たせるものであることから、今後更なる建設促進を図られ、早期に大月バイパスの全線が完成されることを望むものである。

2 初狩バイパスの建設促進

国道20号の初狩地区は、幅員が狭隘で急カーブが多いため交通事故が多発し、大型車両のすれ違いにも支障をきたして渋滞の原因にもなっており、加えて、歩道も極端に狭く、一部で歩道のない箇所も存在している。このため、交通安全対策において、早期に改善すべき状況にあるので、同地区の笹子川沿いにバイパスの建設されることを願っている。このバイパスが建設されることで、周辺土地の高度な利活用が図られるとともに、本市の目指す企業誘致の促進にも繋がり、ひいては地域活性化への礎になるものであり、早期の事業化が図られることを期待している。

3 スマート I C の設置

本市富浜町の中央自動車道沿いにおいて、山梨県が総面積 42 ヘクタールの大規模公園として「桂川ウェルネスパーク」を建設中であり、現在、その内の約 3 分の 1 が完成し、部分供用が開始されている。

全ての完成は、平成 22 年度末を目指しているが、本市への来訪者の増加等により、地域活性化に繋がる事業として大いに期待している。この公園周辺にスマート I C が設置されると、近隣には、日本三奇橋として名高い国指定の「名勝 猿橋」も位置していることから、観光振興の観点から相乗効果がもたらされ、これらの観光資源を最大限に活かしながら、周辺住民の利便性の向上はもとより、地域経済の活性化と発展に大きく寄与できるものである。よって、スマート I C が設置できるようご支援願いたい。

4 中央自動車道路六車線化の延伸

中日本高速道路㈱はもとより国土交通省の支援と協力により、大月 I C から上野原 I C 間の六車線化が図られ、交通渋滞の緩和や交通安全の確保等、一定の効果が表れているところである。

しかしながら、上野原 I C から八王子 I C 間については、依然として四車線であり、圏央道が開通したものの交通渋滞の難所解消には至っていない。昨今、東京圏や近県への交通アクセスの円滑化・スピード化が更に望まれる中、産業経済・観光・防災など様々な分野への活用を図る上でも、同区間の改善が必要と思われるので、六車線化の延伸が早期に事業化されるよう取り計らい願いたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

山梨県大月市

○ 現 状

当市は、280平方kmという広大な面積を有しているが、市域の約87%が山林原野で占められ、国道20号と国道139号に沿って集落が点在している。豊かな緑と自然に恵まれている一方で、地形が急峻であることから、台風や近年に見られるゲリラ豪雨などにより、道路法面が崩落する被害が発生し、通行不能で集落が孤立した事例も幾度か見られる等、道路災害は市民生活に大きな影響を及ぼしている。

また、国道20号においては、連続降雨量が250ミリに達すると、市内の東西に位置する2箇所で行き止めの措置が講じられるため、一時的ではあるが市内全体が孤立に近い状態となり、さらに、国道利用車両の滞留による避難所の確保等その対応にも苦慮しているところである。

このため、国道をはじめ、県道、市道など生活関連道路の整備は、施策の重点事項として取り組んでいるが、今後においても国や県の支援を得る中で、一層充実した道路関連施策を展開していく必要がある。

○ 課 題

市内の道路整備は、年次計画のもとで逐次対応しているところであるが、未だにその整備は不十分であり、将来を見据えての対応が課題となっている。

厳しい経済情勢の中で地方自治体の財政状況は年々悪化し、道路関係予算の確保にあたっては厳しさを増している状況である。

特に、一定規模以上の道路整備を実施するためには、国の支援が得られない限りは事業に踏切れないというのが現状である。

このため、国等に対して積極的な要望活動を行っているが、先ずは、地方の切実な願いが実現できるよう、国において道路財源を充分に確保されるとともに、市町村に対する補助額や補助率を増加してほしいと願っている。

また、国道関連としては、改良すべき箇所が数多く残されている中で、交通事故が多発する急カーブの線形改良や強固な工事による雨量規制箇所の解消等を図るべく、これらの早期事業化を望むところである。

②-1 地域の現状と抱える課題

山梨県 大月市

○ 現状

1. 災害に強く日常生活に安心・安全な道づくりについて
2. 大月バイパス（第1期）未施工箇所の早期完成について
3. 大月バイパス全線開通後の旧道移管について
4. 交通安全施設等整備事業の早期着手について

○ 課題

1. 市内を東西に伸びる国道20号は日常生活に重要な幹線道路である。各所に急峻な地形が多く、豪雨時には度重なる交通規制が行われている。また、部分的に狭隘な区間や急カーブも数多くあり、日常走行において快適な走行が阻害されている。これらの危険箇所を早期に改良されることを望みます。
2. 大月バイパスが国道139号と交差した北側は部分的に未改良となっている。接続市道との交差も仮設的な施工となっていることから早期完成を望みます。
3. 大月バイパスが全線開通後に既設現道部は移管されることと思います。これに際しては、既存部分の再整備を行って移管されることを要望します。
4. 山梨県内で21箇所が指定されている事故危険箇所のうち2箇所が大月市内にあります。（国道20号 大月町花咲地内及び初狩町中初狩地内）この早期着手を望みます。